

◎ 指示があるまで開かないこと。

(平成 22 年 2 月 18 日 13 時 55 分～15 時 00 分)

注 意 事 項

1. 試験問題の数は 50 問で解答時間は正味 1 時間 5 分である。
2. 解答方法は次のとおりである。

各問題には 1 から 4 までの 4 つの選択肢、もしくは 1 から 5 までの 5 つの選択肢があるので、そのうち質問に適した選択肢を(例 1)、(例 2)では 1 つ、(例 3)では 2 つ選び答案用紙に記入すること。

なお、(例 1)、(例 2)の質問には 2 つ以上解答した場合は誤りとする。(例 3)の質問には 1 つ又は 3 つ以上解答した場合は誤りとする。

(例 1)

101 助産業務が行えるのはどれか。

1. 合格発表日以降
2. 合格証書受領日以降
3. 助産師籍登録日以降
4. 免許証受領日以降

正解は「3」であるから答案用紙の ③ をマークすればよい。

答案用紙①の場合、

101	①	②	③	④
			↓	
101	①	②	●	④

答案用紙②の場合、

101	101
①	①
②	②
③	→ ●
④	④

(例2)

102 助産師国家試験の受験資格が規定されているのはどれか。

1. 医療法
2. 学校教育法
3. 母子保健法
4. 保健師助産師看護師法
5. 看護師等の人材確保の促進に関する法律

正解は「4」であるから答案用紙の④をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
102	①	②	③	④	⑤	102	102	①	①	
			↓			①		②	②	
102	①	②	③	●	⑤	②		③	→ ③	
						③		④	●	
						④		⑤	⑤	
						⑤				

(例3)

103 助産師籍に登録されるのはどれか。2つ選べ。

1. 生年月日
2. 受験年月日
3. 卒業年月日
4. 就業年月日
5. 登録年月日

正解は「1」と「5」であるから答案用紙の①と⑤をマークすればよい。

答案用紙①の場合、					答案用紙②の場合、					
103	①	②	③	④	⑤	103	103	①	●	
			↓			①		②	②	
103	●	②	③	④	●	②		③	→ ③	
						③		④	④	
						④		⑤	●	
						⑤				

- 1 リプロダクティブ・ヘルス/ライツに照らして正しいのはどれか。
 1. 子宮頸がん検診を国が義務化する。
 2. 妊娠の継続はパートナーの同意が必要である。
 3. 新生児の疾病予防のための指導は含まれない。
 4. 妊娠を希望しないカップルに経口避妊薬の情報を提供する。

- 2 内分泌系のフィードバック機構で正しいのはどれか。
 1. 卵胞期のエストロゲンはFSH分泌を促進する。
 2. 卵胞期のインヒビンはFSH分泌を抑制する。
 3. 排卵期のエストロゲンはLH分泌を抑制する。
 4. 排卵期のインヒビンはLH分泌を促進する。

- 3 ヘルペスで正しいのはどれか。
 1. 単純ヘルペスウイルスは性器に感染すると仙髄神経節に潜伏感染する。
 2. 単純ヘルペスウイルスの母児感染は初感染では約20%である。
 3. 産道感染による新生児ヘルペス症の死亡率は約10%である。
 4. 性器ヘルペスは左右非対称の潰瘍性病変を形成する。

- 4 胎盤の構造と機能で正しいのはどれか。
 1. 胎盤では水溶性物質が通過しやすい。
 2. 母体血は子宮動脈から絨毛血管へと流れる。
 3. 胎児血は臍帯動脈から胎盤に入り、絨毛間腔に流れる。
 4. 絨毛細胞と胎児の血管内皮細胞とを介して物質交換が行われる。

- 5 Deutsch による妊婦の心理で正しいのはどれか。
1. 不安、緊張および痛みが相互に関連する。
 2. 受容期、保持期、開放期の経過をたどる。
 3. 内向的・消極的になるのは妊娠3か月ころがピークである。
 4. 胎児との同一化が生じ、分娩に近づくと分離への恐怖が生じる。
- 6 成人に比べて乳幼児が脱水症を起こしやすい要因はどれか。
1. 腎濃縮力が高い。
 2. 体内の水分含量が少ない。
 3. 尿細管の水再吸収機能が高い。
 4. 体表面積当たりの不感蒸泄が多い。
- 7 双頸双角子宮で正しいのはどれか。
1. ミュラー管と尿生殖洞との融合障害で起こる。
 2. 経膈分娩は不可能である。
 3. 胎位異常率は低い。
 4. 流早産率は高い。
- 8 子宮復古不全で正しいのはどれか。
1. 頻度は多産婦よりも初産婦に多い。
 2. 頻度は非授乳婦よりも授乳婦に多い。
 3. 原因は胎盤や卵膜の子宮内遺残が多い。
 4. 子宮内膜炎を併発したら子宮内容除去術を行う。

- 9 産後うつ病で正しいのはどれか。
1. 多くは産後3～6か月で寛解する。
 2. 分娩後数日以内に発症することが多い。
 3. 主症状は幻覚や妄想、錯乱状態である。
 4. 日本における発病頻度は20～40%程度である。
- 10 妊婦の血液型がO型RhD(-)で、夫の血液型がA型RhD(+)である。以前、夫との間で1度妊娠し、人工妊娠中絶をしている。その際にはγグロブリンの投与は受けていない。
- 今回生まれてくる新生児の血液型で溶血性黄疸を起こさないのはどれか。
1. A型RhD(+)
 2. A型RhD(-)
 3. O型RhD(+)
 4. O型RhD(-)
- 11 羊水量で正しいのはどれか。
1. AFIが8以下で羊水過少を疑う。
 2. 正常経過では妊娠37週以降には減少する。
 3. 胎児の気道分泌と膜内移行とが維持調節の中心である。
 4. 妊娠末期の胎児が嚥下する羊水量は200ml/日以下である。
- 12 経口避妊薬の避妊効果を減弱させる可能性がある薬剤はどれか。
1. インスリン
 2. 経口血糖降下薬
 3. 三環系抗うつ薬
 4. ペニシリン系抗菌薬

13 28歳の初産婦。39週4日。陣痛開始から8時間が経過している。陣痛間欠4分。内診所見は子宮口5cm開大、展退度80%、頸部の硬度は軟、子宮口の位置は前方。先進部は小泉門で2時方向に触れ、坐骨棘を触れる。

分娩経過の判断で正しいのはどれか。

1. 第1回旋である。
2. 産瘤は右側にできる。
3. 第2前方後頭位である。
4. ビショッブスコアは9点である。

14 29歳の経産婦。前回の分娩所要時間は28時間で総出血量は800mlであった。今回は分娩第1期から血管確保のために点滴静脈内注射を開始した。分娩所要時間は3時間で、分娩第3期出血量は200ml、子宮収縮は良好であった。

対応で最も適切なのはどれか。

1. 現時点で静脈留置針を抜去する。
2. 30分後に子宮収縮を確認する。
3. 1時間後にバイタルサインと出血量とを測定する。
4. 2時間後に歩行開始する。

15 児頭と体幹の娩出介助で正しいのはどれか。

1. 後頭結節が恥骨下縁をはずれた後は児頭の急激な反屈を防ぐ。
2. 児頭が娩出したら咽頭深く吸引する。
3. 臍帯巻絡の確認は会陰を保護している手で行う。
4. 仰臥位分娩では体幹は母体よりも下に向かって娩出させる。

16 33歳の初産婦。妊娠39週2日に陣痛発来し入院した。妊娠経過は正常である。入院時内診所見は子宮口1cm開大、展退度50%、Station-3であった。その後、陣痛は消失した。NSTはreactive、未破水で羊水量は正常であった。

対応で適切なのはどれか。

1. 分娩誘発を行う。
2. 入院を継続しOCTを行う。
3. 入院を継続し自然経過をみる。
4. 退院させ4、5日後に外来を受診させる。

17 吸引遂娩術で正しいのはどれか。

1. 牽引時は努責を禁止する。
2. 1回の牽引は2分以上とする。
3. 装着部位は大泉門の位置とする。
4. 吸引カップの陰圧は40~60cmHgにする。

18 動脈管で正しいのはどれか。

1. 出生と同時に器質的に閉じる。
2. 左心室と下行大動脈とを結ぶ。
3. 早産児では動脈管開存が持続しやすい。
4. 動脈血酸素分圧の低下によって閉鎖が始まる。

19 新生児の所見を下に示す。

直ちに酸素投与が必要なのはどれか。

時 期	チアノーゼの状態	呼吸状態	呼吸数	心拍数
1. 出生直後	中心性チアノーゼあり	陥没呼吸あり	70/分	160/分
2. 生後 5 分	末梢性チアノーゼあり	陥没呼吸あり	80/分	160/分
3. 生後 10 分	中心性チアノーゼあり	陥没呼吸あり	80/分	150/分
4. 生後 2 時間	中心性チアノーゼあり	異常呼吸なし	50/分	140/分

20 帝王切開術で正しいのはどれか。

1. 新生児の一過性多呼吸に注意する。
2. 脊椎麻酔では血圧が上昇する危険がある。
3. 古典的帝王切開術では子宮下節を横切開する。
4. 仰臥位低血圧症候群の場合は手術台を右側に傾ける。

21 健やか親子 21 における思春期保健対策で質的転換を図るために推進されている取り組みはどれか。

1. 職業体験
2. 同世代との仲間教育
3. 乳幼児とのふれあい
4. 高齢者とのふれあい

- 22 有床助産所における助産管理で適切なのはどれか。
1. ケア実践に関する規程の作成は必要ない。
 2. 緊急時は診察室を入所室として活用する。
 3. 母子の健康生活支援は助産師が単独で行う。
 4. 正常妊娠経過であれば嘱託医療機関の診察は必要ない。
- 23 授乳婦に禁忌なのはどれか。
1. インドメタシン
 2. イブプロフェン
 3. アンピシリン
 4. エルゴタミン
 5. ジアゼパム
- 24 直接母乳栄養が確立している母親の自己管理で適切なのはどれか。
1. 授乳前に乳頭・乳輪の清拭を行う。
 2. 吸着をはずすときは児の口唇を刺激する。
 3. 授乳前後に児体重を測定し哺乳量測定を行う。
 4. 乳頭に白斑が生じた場合は直接授乳をしない。
 5. 授乳を短時間で切り上げず、後乳をしっかり飲ませる。

- 25 羊水穿刺の相談を受ける際の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。
1. 検査によるリスクについて説明する。
 2. 意思決定における家族の力関係や価値観を考慮することは避ける。
 3. 検査前には検査で明らかになる疾患とその特徴について説明する。
 4. 相談者との信頼関係構築よりも医学的知識の情報伝達を優先する。
 5. 夫婦での意見が一致しない場合、第三者の意向が重要であると説明する。

- 26 身体活動レベルⅡの授乳婦に対して栄養指導をすることとした。

「日本人の食事摂取基準(2005年版)」で授乳中に摂取量を増やす必要があるとされている栄養素はどれか。2つ選べ。

1. 鉄
2. カルシウム
3. ビタミンA
4. ビタミンK
5. コレステロール

- 27 うっ滞性乳腺炎で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 授乳は継続する。
2. 局所の熱感を伴う。
3. 黄色膿汁がみられる。
4. 初産婦よりも経産婦に多い。
5. 産褥1、2日に発症しやすい。

28 28歳の女性。1回経妊、未経産。妊娠を主訴として受診した。問診で情報収集した。

妊娠経過でリスク因子となると考えられるのはどれか。2つ選べ。

1. 自然流産の既往
2. アレルギー性鼻炎の既往
3. 小児期の慢性腎炎の既往
4. 姉が帝王切開分娩
5. 実母が高血圧で内服治療中

29 38歳の経産婦。昨年、第1子を出産した。その後、月経発来がないまま妊娠を自覚したため来院し、妊娠26週0日と診断された。妊婦健康診査の結果に異常はない。「上の子のことで精一杯で、次の妊娠は考えていなかった。夫は忙しそうだし育てる自信がない。生まれてくる子を施設に預けたい」と相談を受けた。

対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 感情の表出を図る。
2. ケースワーカーを紹介する。
3. 児童相談所について説明する。
4. 超音波検査の画像を用いて胎児への関心を促す。
5. 第2子の出産に対する夫の考えについて確認する。

30 HIV感染症の妊婦へのケアで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 抗HIV薬服用状況を確認する。
2. 母乳を与えることができると説明する。
3. 帝王切開分娩の準備について説明する。
4. 妊娠中、胎動カウントの記録は必須であると説明する。
5. 産後は退院まで児と別室になることを説明する。

31 新生児の聴覚で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 先天性聴覚障害の発生頻度は出生1,000人に4、5人である。
2. 先天性聴覚障害は6か月までに治療を開始すると聴覚の回復はよい。
3. 耳音響放射(OAE)法は聴覚障害のスクリーニングに使用できる。
4. 耳音響放射(OAE)法は自動聴性脳幹反応(AABR)よりも偽陽性率は低い。
5. 我が国では聴覚スクリーニングが義務付けられている。

32 新生児の体温で正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 新生児は白色脂肪で熱産生を行う。
2. 至適温度環境の環境温度は生後日数がたつほど高い。
3. 中性温度環境の環境温度は出生体重が小さいほど低い。
4. 閉鎖式保育器内の湿度が高いと体温を保持しやすい。
5. 室温が高いと閉鎖式保育器内の新生児の輻射による熱喪失は少ない。

33 母子保健法における療養の援護の対象疾患はどれか。2つ選べ。

1. 貧血
2. 糖尿病
3. 妊娠悪阻
4. B型肝炎
5. 甲状腺機能亢進症

34 法律とその内容の組合せで正しいのはどれか。2つ選べ。

1. 刑法 ————— 守秘義務
2. 医療法 ————— 応招義務
3. 戸籍法 ————— 異常死産児の届出義務
4. 母子保健法 ————— 助産録の記載
5. 保健師助産師看護師法 ————— 業務従事者届

35 自宅分娩の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 自宅分娩の可否は妊婦の希望を最優先する。
2. 分娩時は助産師2人で対応できるよう計画する。
3. 胎盤は都道府県の条例に基づき処理する。
4. 分娩終了後24時間は褥婦宅に滞在して経過観察する。
5. 分娩時使用した綿花とガーゼ類とは家庭ごみとして廃棄する。

次の文を読み 36～38 の問いに答えよ。

43歳の初妊婦。妊娠34週の妊婦健康診査で児の推定体重は1,600gであった。妊娠高血圧症候群が進行したため、妊娠38週4日に帝王切開となった。児は、出生体重2,040g、啼泣は良好でアプガースコアは1分後8点、5分後9点であった。低出生体重児のため、小児科医の診察を受け、呼吸数45/分。心拍数115/分。白血球数18,000/ μ l、Hb 23 g/dl、Ht 69%、血糖値45 mg/dl、CRP 0.2 mg/dl 未満であった。

36 異常値はどれか。

1. Ht
2. 心拍数
3. 血糖値
4. 白血球数

37 生後6時間の新生児。体温36.1℃。呼吸数32/分。心拍数102/分、整。体色は赤い。初回排便があり、柔らかい胎便が大量に出た。尿はまだ出ていない。あまり泣かず、これまで何度も授乳を試みたが、乳首に吸い付かず、母乳をほとんど飲めていない。

この児の状況で最も注意しなければならない病態はどれか。

1. 低血糖
2. 洞性徐脈
3. チアノーゼ
4. 胎便排泄遅延

38 再度、小児科医の診察を受け、点滴静脈内注射が開始され、児は NICU へ転棟した。生後 8 日、児は新生児室へ転棟し、母子同室を予定した。褥婦は血圧が正常となり 2 日後に退院予定である。母子同室にあたって、「母乳を搾ってもあまり出ず、自分の体調も完全でない気がして、育児に自信がもてない」と言う。

対応で適切なのはどれか。

1. 「心配しなくても大丈夫ですよ」
2. 「精神科の先生に相談してみますか」
3. 「母乳をあきらめて人工乳にしますか」
4. 「赤ちゃんと一緒に入院を延長できるか確かめてみましょうか」

次の文を読み 39～41 の問いに答えよ。

48歳の女性。「半年間、生理がだらだら続いている」ことを主訴に婦人科を受診した。夫と25歳の次女との3人暮らし。週3日飲食店でパート勤務している。身長160cm、体重55kg。2経妊2経産で既往歴に特記すべきことはない。月経歴は初経11歳、周期30日で持続5日だったが、45歳を過ぎて周期28日で持続期間は4日であった。

39 女性は問診時に「娘が結婚を控え、その準備であわただしい毎日でした。冬なのに暑くて汗をかいて、時々動悸がして息が苦しくなるのです。そのせいか夜は寝つけませんでした。無事に結婚式は終わったのに不安で憂鬱なままです。夫は仕事中心で、私の話を聞いてくれません。物忘れも多く、最近は親しい友人の名前もすぐに思い出せません。何をすることもおっくうで、夫や娘にしかられます」と言う。

アセスメントで適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 稀発月経である。
2. 抑うつ状態ではない。
3. 記憶力低下の自覚症状がある。
4. 血管運動神経性障害を認める。
5. 家族の発達課題がストレス因ではない。

40 検査の結果、不正性器出血の原因は更年期障害と診断された。

診断の根拠となった検査結果はどれか。2つ選べ。

1. TSH 上昇
2. FSH 上昇
3. 細胞診クラスⅢb
4. エストラジオール低下
5. 総コレステロール上昇

41 女性は「更年期障害と言われてがく然としています。職場の仲間は私ほどつらそうじゃない。娘が嫁ぎ、心にぽっかり穴があいたままで家事や仕事をする気力がありません。私1人が周りに迷惑ばかりかけている」と沈んでいる。

最初の対応で適切なのはどれか。2つ選べ。

1. 田中・ビネー式知能検査法を行う。
2. 心身の変調によるつらさを理解する。
3. 健康的なライフスタイルについて話す。
4. 女性としての自己イメージについて確認する。
5. 孤独感に対してピアカウンセリングを紹介する。

次の文を読み 42～44 の問いに答えよ。

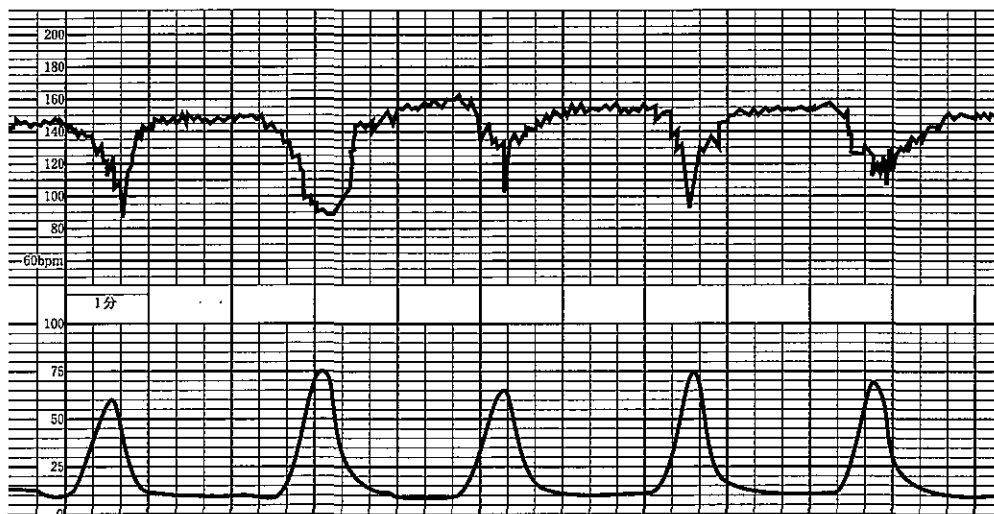
39歳の3回経産婦。妊娠38週6日。午前9時ころから規則的な弱い子宮収縮があり、入院した。身長158cm、体重60kg。子宮口3cm開大、展退度80%、Station-3、未破水であった。陣痛間欠10分、発作20秒で、間欠時は子どもたちのことをよく話し、発作時はおなかが張る程度であった。入院時、胎児心拍モニタリングはreassuringであった。

42 午後8時に子宮口7cmとなり、Station±0から+1、陣痛間欠5分、発作50秒であった。小泉門は8時方向に触れる。胎児心拍モニタリングではreassuringである。陣痛室で仰臥位の姿勢で「陣痛はあまり強くなりません」と言う。

対応で適切なのはどれか。

1. 経過を観察する。
2. 四つん這いの姿勢をとるよう促す。
3. 吸引分娩の準備をする。
4. 陣痛促進薬の投与を医師と検討する。

43 午後10時、陣痛間欠1分30秒、発作50秒であった。破水感を訴えた。このときの胎児心拍陣痛図を示す。



まず行うべき対応はどれか。

1. 内診を行う。
2. 酸素投与を行う。
3. 体位変換を行う。
4. 分娩室に入室させる。
5. パットを取り替える。

44 午後11時、3,800gの女児を出産した。胎盤娩出直後、子宮は臍下2横指、収縮は良好であった。分娩第3期までの出血量は150gであった。体温37.6℃。脈拍90/分。血圧130/80mmHg。分娩台の上で直接授乳を行い、母親は初めての女の子に喜びを表していた。

アセスメント項目で優先度が高いのはどれか。

1. 血圧の変化
2. 感染の有無
3. 子宮収縮の状態
4. 母子の愛着行動
5. 母乳育児への意欲

次の文を読み 45～47 の問いに答えよ。

37歳の初産婦。妊娠39週3日。午後11時に3,020gの児を経膣分娩した。会陰裂傷第2度であった。分娩後第4期までの総出血量は700ml。分娩後2時間で歩行し自然排尿があった。

45 翌朝3時の訪室時、体温36.6℃。脈拍68/分。血圧114/68mmHg。子宮底は臍上2横指で輪状マッサージをすると硬く触れるが、すぐに軟らかくなる状態だった。血性悪露50ml、持続出血はなかった。尿意はないが膀胱はやや充満していた。授乳はまだ開始していないが初乳分泌がみられた。

産婦への説明で適切なのはどれか。

1. 「悪露が多いので導尿しましょう」
2. 「子宮の戻りをよくするため直接授乳をしましょう」
3. 「膀胱に負担をかけないように、水分は少なめにしましょう」
4. 「会陰の傷が大きめなので、無理をせずベッドに横になって過ごしましょう」

46 産褥4日。体温36.8℃。脈拍70/分。血圧120/78mmHg。子宮収縮は良好となり、排尿機能に異常を認めない。乳房全体が緊満しており、乳頭・乳輪は固く、左乳頭に亀裂が見られる。

直接授乳の指導で適切なのはどれか。

1. 児が眠ったらすばやく乳頭を児の口からはずす。
2. 児の下顎が乳房に触れるような姿勢とする。
3. 左乳頭をよく乾燥させる。
4. 直接授乳を中止する。

47 産褥 15 日。悪寒戦慄、倦怠感および乳房痛を主訴に来院した。体温 39.0℃。脈拍 88/分。血圧 128/78 mmHg。左乳房の上外側に、疼痛を伴う硬結、発赤および熱感がみられた。「昨夜から急に乳房が腫れ、痛み出した。熱が出始めたのは深夜です」と言う。診察後、医師から抗菌薬が処方された。

対応で適切なのはどれか。

1. 乳房マッサージを行う。
2. 患部を冷やすように指導する。
3. 水分を制限するように指導する。
4. 直接授乳を中止するよう指導する。

次の文を読み 48～50 の問いに答えよ。

600床の病院の産科病棟。病床数は1床室4室、2床室3室、4床室5室である。出生直後から24時間の母子同室制を実施している。勤務は二交代制であり、日勤は助産師10名、夜勤は助産師3名で業務を行っている。本日は満床であった。新生児室には夜間の母子異室を希望する母親4名の新生児がいた。

48 災害時に備えるべき産科病棟の環境で適切なのはどれか。

1. 避難経路は1つにする。
2. 薬品棚の戸ははずしておく。
3. コットは常時固定しておく。
4. 保育器と輸液ポンプとは一体化して設置する。

49 午前3時、震度6強の地震が発生した。直ちに妊産褥婦、新生児の安否を確認した。

確認後、まず行うべき対応はどれか。

1. 出勤可能な看護職員への連絡
2. 医療機器の作動状況の確認
3. 妊産褥婦の家族への連絡
4. 調乳のための水の確保

50 地震発生後、病院の一部が倒壊するおそれがあるため避難するように防災センターから指示があった。

避難の方法で適切なのはどれか。

1. 病室ごとに避難させる。
2. 新生児室にいる新生児は母親に手渡す。
3. 避難経路はそれぞれの助産師の判断で決定する。
4. 母子同室中の新生児はコットに寝かせて避難させる。